



荷崩れを防止するラップの巻き方を学ぶ

県内初！町単独での「災害時物資受入訓練」

災害時の物資集積拠点となる勤労者体育センターで9月18日、「物資受入訓練」が行われました。大規模災害時に外部から届く救援物資を円滑に受け入れ、避難者へ迅速に配布する体制を整えようと町が初めて企画。災害時の支援協定を締結している佐川急便(株)の協力のもと、町職員21人が参加しました。

参加者らは搬入から仕分け、保管までの作業を体験し、必要な資材や搬入経路の課題について意見交換する場面も。また荷崩れを防止する段ボールの積み方やラップの巻き方なども学んでいました。



示された事例に対してグループで課題を協議

四国初！避難生活を考える内閣府モデル研修

内閣府・高知県・四万十町の共催による「避難生活支援リーダー・サポーター研修」が10月18日・19日の2日間、農村環境改善センターで行われました。

本研修は、避難所の生活環境を改善し「災害関連死」を防ぐことを目的に、令和4年から内閣府のモデル事業として全国で展開されているものです。四国で初開催となった今回の研修には、町内外から44名が参加。避難所を再現したスペースで、課題の抽出や改善策の検討を行いながら、被災者とのコミュニケーションの取り方を実践的に学んでいました。



給水所ではボランティアスタッフがおもてなし

秋の四万十を快走「ウルトラマラソン」開催

「第31回四万十川ウルトラマラソン」が、10月19日に開催されました。

前日には、毎年参加者から好評の前夜祭も開催され、地元料理やよさこい踊りなどでもてなし、にぎやかな交流会となりました。

大会当日、こいのぼり公園前をスタートしたのは、60kmの部にエントリーした約500名のランナー。大会ゲストの猫ひろしさんのエールを受けながら、ゴールの中村高校を目指し、秋の四万十路を駆け抜けていきました。

沿道からの応援や給水所でのおもてなしなど、今年もたくさんのボランティアの皆さまに支えられ、無事大会を終えることができました。

【各部門優勝タイム(敬称略)】

100km男子の部	板垣 辰矢(静岡県)	6時間49分20秒
100km女子の部	高野 温菜(埼玉県)	7時間47分15秒
60km男子の部	高橋 駿介(愛媛県)	4時間07分49秒
60km女子の部	斉藤 明日佳(静岡県)	5時間19分53秒

【完走率(完走者数／出走者数)】

100kmの部	62.9%(1,008人／1,603人)
60kmの部	85.6%(410人／479人)



前夜祭では地元料理が並び、地域住民と交流



驚異の3連覇を果たした「異骨相」の皆さん

男女・世代を超えた白熱ミックスバレー

「第34回B&G会長杯ミックスバレーボール大会」が窪川B&G海洋センターで、9月2日・5日・9日の3日間の日程で開催されました。

今大会には町内から8チーム、10代の若い選手からベテラン選手まで幅広い年代の方が参加。世代を超えた交流の場としても大いに盛り上がりを見せました。

熱戦を制し優勝したのは「異骨相」チーム。予選トーナメントをストレートで勝ち上がり、決勝でも圧倒的な強さを見せ、見事、大会3連覇を達成しました。



安全を願う風船が一斉に青空へ

安全の願い、青空へ！秋の交通安全出発式

高齢者の事故防止などに重点的に取り組む「秋の全国交通安全運動」の出発式が9月22日、窪川警察署などで行われました。

この出発式には、町内の保育園児や警察官、交通事故防止活動に取り組む関係団体など約50人が参加。式典では、保育園児による交通安全宣言や交通安全を願った風船飛ばしが行われました。

その後、警察官や関係団体が街頭でのドライバーサービスを行い、笑顔で交通安全を呼びかけ事故防止に努めていました。



講師の説明を真剣に聞く生徒たち

日本の伝統漁法を高校生が体験

アユ釣りの伝統漁法の一つ「友釣り」を体験する学習会が9月27日、大正新橋下の河原で行われました。参加した四万十高校の生徒たちは、四万十川東部漁協組合の関係者から、マンツーマンで指導を受け、初めての友釣りに挑戦。

約9mの釣竿でおとりアユを泳がせ、縄張り争いをさせながらタイミングよく引っ掛けて釣る漁法に生徒たちは大苦戦。

それでも「アユの習性を生かした釣り方で面白い」「大人になって余裕ができたならやってみたい」など、友釣りへの関心を高める経験となったようです。



インターン生が町長らの前で活動を報告

町営塾じゆうく。インターンシップ実施

「高校卒業後もこの町に関わり続けたい」。そんな思いに応え「町営塾じゆうく。」を運営する(株)FoundingBaseが町内高校卒業生を対象に初めてインターンシップを企画しました。参加した3名の卒業生は8月から約1か月間「スタッフ」として中高生と関わり、9月18日には町役場で開催された報告会で学んだことや感じたことを発表しました。

「じゆうく。」では今後も「この町で成長した子どもたちが帰ってくる、そんな『教育の循環』を作っていきたい」とのことです。